

NEWS RELEASE

NOHMI
能美防災株式会社

足立区で地域住民による避難所開設訓練を実施

—N-HOPS を活用し実際の施設内で開設を実践、90%が「一連の流れをイメージできた」と回答—

能美防災株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:長谷川雅弘、資本金:133 億 2 百万円、東証プライム市場)は、2026 年 8 月 30 日、足立区立北三谷小学校で、避難所開設支援アプリ「N-HOPS(エヌ・ホップス)」を活用した避難所開設訓練を実施しました。本トライアルには、日頃から同校の避難所開設・運営訓練に取り組む避難所運営組織の皆さま 30 名が参加しました。

参加者は、N-HOPS に表示される写真や図面、行動手順を確認しながら校内を移動し、施設の安全確認から避難者を受け入れるための受付設置まで、避難所開設の一連の流れを実践しました。



■避難所ごとの運用を、「現場で動ける手順」へ

災害が発生したとき、避難所開設を担う人が十分な経験を持っているとは限りません。また、通信環境や利用できる端末なども、平時と同じ条件が確保されるとは限りません。

能美防災では、避難所開設訓練において重要なのは、マニュアルに書かれた内容を確認することだけではなく、実際の施設で、その場にいる人が必要な行動を取れる状態になっているかを確認することだと考えています。

今回のトライアルに向けては、足立区および北三谷小学校避難所運営組織と、施設の状況や資機材の配置、避難所運営組織の役割分担などを事前に確認し、実際の運用に沿って N-HOPS 上の行動手順を整理しました。

既存のマニュアルをそのままデジタル化するのではなく、避難所ごとの施設・設備・役割分担を踏まえ、「現場で誰が、何を、どの順番で行うのか」まで具体化することを重視しています。

■実際の施設で避難所開設の流れを確認

参加者は避難所運営組織の役割分担に沿って、施設の安全確認、避難スペースの確認、トイレや受付の準備などを行いました。

N-HOPS に表示された写真や図面、作業内容を確認しながら実際の校内を移動し、一つひとつの作業を進めました。避難所開設では、複数の担当者がそれぞれの作業を同時並行で進め、その結果をほかの担当者へ引き継ぐ場面があります。

今回の訓練では、個々の作業を確認するだけでなく、一つの確認や判断が次の行動につながっていく、一連の避難所開設業務として体験することを重視しました。



■災害時の通信環境も想定した運用を確認

災害時には、通信環境が通常どおり利用できない可能性があります。そこで今回は、必要なデータをあらかじめ端末へダウンロードし、通信環境に接続しない状態でも避難所開設手順を確認する訓練を行いました。

今回の訓練を通じて、通信環境が利用できない場合でも、事前に保存した施設写真や図面、行動手順を用いて必要な作業を進められることを、実際の施設で確認しました(注:オフライン時には、完了した作業のリアルタイム共有など、一部利用できない機能があります)。

■90%が「避難所開設の一連の流れをイメージできた」と回答

トライアル後、参加者を対象にアンケートを実施し、30名から回答を得ました。避難所開設の流れへの理解や実災害時の利用意向に加え、N-HOPSを利用して役立った点について確認しました。

トライアル後アンケート結果

90%

27名 / 30名

避難所開設の一連の流れをイメージできた

約86%

25名 / 29名

実際の災害時にもN-HOPSを利用したい

N-HOPSを利用して特に役立った点(複数回答)

次に行う作業が分かりやすかった		69% 20名
各作業で何をすればよいか分かりやすかった		62% 18名
画面を見ながら、自分で作業を進められた		55% 16名

今回の結果は実災害時を直接検証したものではありませんが、参加者が避難所開設の一連の流れを具体的にイメージする一助となったことがうかがえます。

■避難所開設支援アプリ「N-HOPS」について

N-HOPS は、自治体が保有する避難所運営マニュアルや施設図面、資機材の保管場所などの情報を、現場で行動する順番に沿って整理し、スマートフォンやタブレットから確認できる Web アプリです。

避難所ごとの写真や図面を確認しながら作業を進め、完了した作業を記録できます。また、「現地到着」「開設準備中」「受け入れ開始」など、各避難所から報告された状況を災害対策本部側で確認できます。

必要なデータを事前にダウンロードすることで、通信環境が利用できない場合にも行動手順を確認できます。また、行動手順を PDF として出力し、紙媒体と併用する運用にも対応しています。

N-HOPS は 2026 年度から自治体向けに提供を開始しました。

能美防災では今後も、自治体や地域の皆さまと実際の避難所を使った訓練を重ね、そこで得られた気づきを行動手順やサービスへ反映していきます。

■避難所開設訓練やマニュアル活用に関するご相談

能美防災では、これまで自治体との避難所開設訓練やトライアルを通じて、既存マニュアルを現場で行動できる手順へ整理し、実際の施設・設備・役割分担に合わせて訓練へ落とし込む取り組みを重ねています。

今回の足立区でのトライアルでは、実際に施設内で行動することで、システムの操作性に加え、資機材の配置や役割分担など、平時には気づきにくい避難所運営上の論点を確認できました。

こうした知見を活用し、避難所開設訓練の設計、既存マニュアルの現場活用、避難所ごとの行動手順の整理など、それぞれの自治体や避難所の実情に応じたご相談を受け付けています。

能美防災株式会社 総合企画室

担当: 山田、河野

MAIL: n-hops@nohmi.co.jp

TEL: 03-3265-0218